

陽の里

発行 平成24年8月10日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.shinsei-kai.or.jp/>

No.113

テーマ サービスを利用した私らしい生活づくり



▶健仁君の笑顔がお母さんの支え 訪問看護も笑顔のサポートをいたします
(訪問看護・リハビリテーション大垣サテライト)から

訪問看護師と新人教育への期待



社会福祉法人 新生会理事

摂南大学教授 後 閑 容 子 氏

在宅医療を担う専門職の一つに看護師がいる。全国の訪問看護ステーションで働く看護師と准看護師数は約三万人であり、全看護師・准看護師数の2.2%にしか過ぎない。多くの高齢者はできる限り自宅で最期を迎えたいと願っているし、がんや脳卒中などの病気で療養中でも自宅で治療をうけながら過ごしている人も多い。このような人々の在宅医療を支えるには看護職の数として、現状はあまりにも少なすぎる。専門的な知識と技術、患者や家族への対応力、いろいろな専門職の人々との連携や調整力といった、高度な能力を訪問看護師は要求される。だから、今までは、訪問看護師になるには臨床経験を絶対的な条件としていた。しかし、新人看護師が訪問看護を早くから学び、実践を経験することによって、訪問看護師としての成長を期待できる環境づくりをしようという動きもまた、各地で始まっている。それによって、人材の確保も期待できる。地域のニーズを的確に把握し、その地域に住む人々の生活を理解し、社会資本と協力し合える社会性をもった訪問看護師こそ、これからの社会が望む資質ではないだろうか。新人の時期だからこそ、地域社会とのつながりや家族とかかわり、専門職との協働といったことを新鮮に受け止め、育んでいく素地がある。在宅医療の専門職として、

訪問看護師に期待する。



平成23年度 新生活会事例発表一席受賞

在宅と施設の一元化がもたらした

主介護者の気持ちの変化

「アセスメントが可能にした在宅復帰、連携がもたらした安心感」

サンビレッジケアマネジメントセンターⅡ 若園 優

はじめに

普通に自立して生活を送っていた方が、急に介護が必要になった時、今まで同居していた家族の生活が一変し、「施設へ入所するしかない」と考えてしまうケースが多くあります。今回のA氏の事例は、まさにその典型となりました。

対象者の紹介

氏名：A氏 年齢：八十九歳
性別：女性 介護度：要介護2

家族構成：長男と二人暮らし。長男は脳梗塞、腰痛があり介護が困難。A氏は、近隣の友人に受診の送迎や買い物の依頼をしていました。遠方に住む孫は、月に1回位、訪問して買い物、洗濯、掃除などを行っていました。

支援経過

●平成二十四年一月上旬

朝、A氏が自宅にて牛乳を取りに行こうとした時に、膝折れし立てなくなりました。同居している長男が救急車を呼び、病院へ搬送しましたが、検査の結果、異常無しとのことでした。

長男は入院を希望されましたが出来ず、同日午後にサンビレッジに

●一月中旬 中間カンファレンスにて

・食 事：現在の身体状況では、在宅では自炊が困難である為、昼、夕の配食サービス利用を検討しました。

・移 動：入所中は、歩行器で過ごされていますが、自宅内では、廊下の幅が狭く歩行器の使用が困難であるため、四点杖の使用を検討し、リハビリを実施していくこととしました。

・排 泄：夜間はポータブルトイレを使用できているため、居室で紙パンツ、パットを置いて、自分で交換ができるよう働きかけました。

・服 薬：現在、職員が服薬管理を行っていますが、在宅復帰を想定し、一週間分セットした薬を本人に渡し、毎食時に本人が間違えず持つてきているかを確認しました。

・環境整備：作業療法士、介護職員、ケアマネが自宅へ訪問し、転倒防止のため、自宅内の段差の箇所に、手すりの取り付けを提案しました。また、夜間の排泄のため、ポータブルトイレの使用を提案させて頂きました。

アセスメントサービスを利用してからの本人の生活状況を基に、具体的に、長男、孫と、退所後の在宅サービスについて検討しました。この頃になると、具体的な退所後の生活像が見えてきた事もあり、長男の在宅生活に対する不安が軽減していくのが分かりました。

A氏自身も、自宅へ戻るといふ現実を少しずつ受け入れ始め、リハビリなどにも励まれました。

●二月中旬 退所カンファレンスにて
カンファレンスにて、退所後のサービス内容は、次のように決定しました。

「とにかく動けなくなつた。今の状態では家でみれない。入所させて欲しい。」と切迫した様子で、電話を頂きました。

同居している長男は腰痛があり、介護が困難であること、介護を頼める孫が遠方である事を考慮し、まず家族ができる事と負担になっている事との整理が重要と感じました。又、A氏の身体状況、生活状況を把握し分析を行い、どの部分の支援が必要で、どのようなサービスで支えていくかを検討していく必要性がありました。

これらの状況から、今回は「アセスメントサービス」を紹介する事としました。「アセスメントサービス」とは一定期間施設に入所し、自立に向けた介護支援や生活リハビリを受け、その間の評価を基に在宅生活を続けて行く為の検討をして行きます。そして、退所後の在宅での効果的なサービスの組み立てを模索できるメリットがあります。今回自宅で生活する為には、長男が腰痛で介護ができない事を考慮し、手すりなどを活用してでも自分で移動できる事、排泄が自分でできるようになる事を目標としました。

【アセスメントサービス】

●入所当初 初回カンファレンスにて

複数の病院にかかつており、薬が定期的に服用できておらず、多量に残っている状況でした。そのため、まず、病院、主治医を一本化していくこととしました。

また、A氏、長男共に、介護保険を利用する事は初めてという事で、分かりやすく介護保険の概要と、在宅サービスの説明をしました。

また、これらのサービスを利用しながら、在宅生活を送られている方の事例を紹介し、在宅生活への不安が軽減できるよう、働きかけました。

【在宅へつなげたサービスの内容】

サービス内容	曜日	時間	実施内容
デイサービス	月、水、金	9時～16時	他者との交流、身体機能の維持向上、認知症予防など
訪問介護	毎日	朝8時～8時半	ポータブルトイレ掃除、朝食の声掛け、服薬の確認
短時間訪問介護	毎日 <small>（デイ利用日は 昼食時は除く）</small>	昼食時と 夕食時	食事の声かけ、服薬の確認
訪問看護	週1回		病状確認、薬のセット、服薬の確認
配食サービス	毎日 <small>（デイ利用日は 昼食時は除く）</small>	12時頃、 17時頃	昼食、夕食の配食
ショートステイ	月に一回 <small>（泊三日程度）</small>		本人の気分転換、家族のレスパイト

支援経過

実際に在宅に戻り、カンファレンスにおいて話し合ったサービスが入るにつれ、同居の長男に、在宅でも生活ができるという安心感が生まれました。

A氏の変化については、アセスメント入所前は、服薬管理が出来ていませんでしたが、短時間訪問介護、訪問看護が入る事で格段に飲み忘れが減りました。

たまに、服薬ができていない事がありました。短時間の訪問介護が入っている事で、早期発見し、訪問看護と連携をとる事ができました。

また、こまめにサービスが入ることで、本人が日中、一人になる時の不安の解消、精神的な安定に繋がりました。

その他、介護協力者として、遠方に住む孫や近所の友人からは、「安心できてありがたい」「サービスが入る前と比較し、助けや用事を求める電話はかなり減った。一日に何度もサービスが入るので、心強い」との声が聞かれました。

考察

平成二十四年一月上旬に、サンビレッジ新生苑へかかってきた電話から始まったケースです。

高齢者を抱える家族が、介護保険を全く知らない中で、本人がある日突然、動けなくなった時に考える事は、まず「入所」です。家族にとつては、身体が自由に動けず、日常生活に支障がある本人の、在宅生活はイメージしづらいのが現状です。今回の、「アセスメントサービス」を利用することで、当初、在宅生活は難しいと考えていた長男が抱えている不安な点を一つ一つ具体化し、解決策を一緒に考えていく中で、徐々に長男は在宅生活に対して、前向きな気持ちへと変化しました。

また、施設でリハビリと併せて福祉用具の選定を行い、退所後の福祉用具のレンタルにつなげ、施設で介護の必要な時間、量を把握し、退所後の短時間訪問介護につなげるなど、施設サービスと在宅サービスが有機的な連携をとり、在宅復帰の支援ができました。在宅と施設の二元化により、地域が一つの施設の様な機能を持つことで、A氏や長男の不安の軽減につながり、在宅復帰へ気持ちが傾いた要因となりました。



住宅改修で手すりを取付他に簡易手すり、ポータブルトイレを設置

福祉機器利用で生活力アップ

Tさんの足音

作業療法士 太田 慎治

「キュッ、キュッ」今日もTさんの靴音がずらん棟の廊下に響き渡っています。円背姿勢のTさんは足を高く上げられず、歩くときには爪先と床が擦れる音がします。入所当初、自室内は一人で歩きましたが施設内の移動はスタッフによる手引き介助が必要でした。手をかりる事をなかなか言い出せないTさんはスタッフを呼ばれません。その為、ドアが開いた音を聞いてスタッフが駆け寄る状態でした。私達作業療法士は、Tさんを観察する中「手足の筋力が十分に保たれている、円背姿勢の為、手で支持する歩行器では前に倒れる危険がある」ことなどを考慮し、肘で支持するタイプの歩行器を使用していただきました。サンビレッジの理念である「ベーシックニーズ」の「移動」の項目では、①自分で歩く機会を多く持つ②自分に合った補助具の活用②の2点が挙げられています。

苑で用意している歩行補助具の数や種類は限られている為、現在の介護保険制度の枠組みの中では歩行器などの福祉用具は利用者負担での買い取りになります。決して安い買い物ではありませんが、いつまでも「本人らしく」生活してもらうために、出来る限り購入することをお願いしました。どのような福祉用具を購入するかは作業療法士だけではなく、ケアスタッフなど利用者を支える全ての専門職のアセスメントがあつてこそ決められます。単に「歩く」ことだけではなく、歩いてどのように生活するかが重要になるからです。

現在、Tさんは棟内を一人で歩き、誰を呼ぶ事もなくトイレに行つていきます。Tさんが得たものは歩行器ではなく「自分らしさ」なのではないでしょうか。いつまでもTさんの「キュッ、キュッ」という足音が聞けるように私たちは見守り続けます。



「家族へのインタビュー」

今回、入所する事しか考えられなかった長男のN氏がアセスメントサービスを利用する中で「自宅でも生活ができる」と考えが変わっていききました。その時の気持ちをN氏へ伺いました。

●「A氏が倒れた時の気持ちを聞かせてください。」

N氏「あの時はびっくりしました。本人は歩くことができなかったのに、病院へ入院もできなかった。もう、どうすればよいか分からなかった。」

●「アセスメントサービス」を利用された当初は、また自宅で生活できると思われましたか？」

N氏「もう、自宅での生活は無理だと思った。本人は歩けないし…。私も腰痛があつて介護は出来ないうし…。」

●「自宅で生活できる」と考えが変わられた経緯を教えてください。」

N氏「サンビレッジでリハビリをやったり、泊まっている間に、家に手すりを取り付けたり、ポータブルトイレを購入したり、自宅で生活できるように工夫してもらったので、家に帰れると思った。素人の家族では、リハビリなんかできないし、何もわからない。ケアマネジャーが、オムツの見本を私に渡してくれたが、あれも助かった。あれを持ってドラッグストアに買いに行った。皆さんとしては、大したことない事でも、何も分からない私にとっては助かった。今回の出来事で、よくニュースでやっている介護疲れで殺人を犯す人の気持ちが分かるような気がした。すべて自分でやるつもりで思つた大変。色々なサービスを使い、助けてもらつて、安心して自宅で生活ができる。」

●高齢者と配偶者のいない子供と二世帯は増加傾向にあります。2005年の国勢調査によると、高齢者と配偶者のいない子ども世帯の数は20.6%で、五世帯に一世帯の割合です。この事例を通して少しでも今後の参考にさせて頂ければと思います。



▲「さー今日も出かけよう」穂積駅にて

サンビレッジほづみ駅前 管理者 大窪 明美

住宅型有料老人ホーム「ほづみ駅前 アンキーノ」

利用者の方に “ちょっと、尋ねてみました?”

「これで私の老後も、あんしん、あんしん」

住宅型有料老人ホーム「ほづみ駅前 アンキーノ」に入居しているNさんは大阪から来られた方です。

Nさんの一日は、お隣の部屋と一緒に入居された兄嫁のTさんに声をかけ、健康のためにと始められた毎朝の散歩から始まります。

お二人は、一緒に過ごす事が多く、朝食と昼食は、お部屋のキッチンでつくったそれぞれの得意な料理を持ち寄り食事をすることが楽しみで、夕食前には大浴場で入浴を済し、「いいお湯だったわよ、毎日が温泉気分だわ」と、食堂へ行かれます。

日中は日替わりのおやつ作りやネイルアート等を楽しまれ、毎週火曜日には、Tさんと岐阜シティタワーでボイストレーニング（声を出すことで嚙下機能や、心肺機能の向上を目指し、風邪や肺炎の予防の訓練）に参加されます。

又、近所にある喫茶店や、カフェレストラン、スーパーやデパート、コンビニエンスストアにも出かけての日々を送ってられます。

Nさんは「子供がいないので、一人になって老い先が不安だったが、此処に来て不安が無くなり、気が楽になり幸せ」と話されます。

アンキーノは、これからもNさんの生活スタイルを大切にしてサポートさせていただきます。どうぞ宜しくお願いします。

トピックス

～ 1300年の伝統 幽玄の境地 ～ 鵜飼観覧宿泊イベントのご案内



毎年恒例、鵜飼観覧イベント第2弾のご案内です。
美味しい鮎会席を堪能し、さわやかな秋風の中鵜飼観覧に出掛けませんか？

- 特典① 特別鮎会席：お一人お一人に合わせた食事形態で出張板前が腕を振ります
- 特典② 鵜飼観覧：貸切バリアフリー船に介護職員も同乗し車椅子の方でも安心して楽しめます

- 日時：平成24年9月12日(水)～13日(木)
- 料金：48,000円
(鵜飼観覧、夕・朝食事 介護サービス込み)
- 申し込み締め切り 8月25日
- お問い合わせ TEL 058-266-4335
シティタワー・アンキーノ (山口・川瀬)

～ 熱中症や夏バテ予防に ～ 夏のオアシス「白鳥カフェ」へようこそ!



「白鳥カフェ」をご存知ですか？リハビリセンター白鳥の1階に併設され「健康」をテーマにした身体に優しいカフェとして、4月の開設以来、利用者の方々やそのご家族、職員は勿論、地域住民の皆様にもご好評を頂いています。

中でも人気は、毎朝の「焼き立て無添加パン」や、新鮮な野菜をふんだんに使用した「野菜丸搾りジュース」等の販売です。氷や麺類の夏メニューも始めました。

皆様のご来店お待ちしております!

【お問い合わせ】 TEL 0585-45-3133
リハビリセンター白鳥



サンビレッジ新生苑 盆踊りのご案内



「届けよう 生きるチカラ 踊りてつなごう 心の故郷」
をテーマに楽しい催し物を多数企画しております。
皆様お誘い合わせのうえ、是非お越しください!

- 日時：8月18日(土) 午後5:30～7:30まで
- 場所：サンビレッジ新生苑 中庭
- 内容：盆踊り、よさこい踊り、ききょう太鼓、各種模擬店等



TEL:(0585)45-5545
担当：サンビレッジ新生苑
盆踊り実行委員会

～平成24年度 家族交流会～ 介護者の集いのご案内



今年も、新生苑の在宅サービス利用者のご家族を対象にした「介護者の集い」が開かれます。

「介護は介助者一人で抱え込まず、皆で支え合おう」という思いのもと、日頃介護を続けてみえる皆さん各々の気分転換方法であったり趣味活動のご様子など、同じ立場の方々だからこそ共有できる思いや繋がりを大切にしたい場となるように、企画させて頂いています。

又今年度も年3回程、「排泄」「食事・嚥下」「認知症」等、おおまかなテーマを設けての進行も企画しています。随時ご案内しますので、是非ご参加下さい。お待ちしております。

【お問い合わせ】 TEL 0585-45-5545
サンビレッジ新生苑